
月の願い事

紫羽月桜鈴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月の願い事

【コード】

N3589N

【作者名】

紫羽月桜鈴

【あらすじ】

月と太陽の小さな願いの物語。

皆知ってた？

お月様も願ったことがあるのを――。

それはそれは昔。

月食が近ずいていたときのこと。

お月様は、太陽と会えたら聞きたいことがありました。

――どうやったら太陽みたいになんて一人輝けるのだろう。

月食の日。

わずかな時間に太陽に聞いてみました。

「どうやったら太陽みたいになんて一人輝けるの？僕も何かの役にた
ちたいんだ！」

すると、太陽は言いました。

「もう役にたててるじゃないか」

そう言われて訳が分からなくなりました。

「なんの？」

「人間の、さ。君がいないと夜道は歩けないだろう。」

月はまた聞きました。

「それも君が僕を照らしてくれるからじゃないか。僕は何もしてな
い。」

太陽は言いました。

「ならば星は？君がいないと寂しいだろう。」

「僕がいるからあんまり輝けないよ」

月はしょんぼりして言いました。

太陽は少し悩んで、言いました。

「ならば、皆の夢が叶うように、一緒に祈ればいい！月と一緒になら
皆も心強いだろう！」

太陽の提案に、月はまた弱々しく言いました。

「でも・・・」

太陽は、その言葉を遮って言いました。

「聞いてご覧！人間や星たちの声を！」

その言葉に月は、ようやく気付きました。

たくさんの、たくさんの気づけなかった言葉が、月の耳に届く。

それは、たくさんの星の声。

たくさんの人の声。

「こんなにたくさん声。どうして気付かなかったんだ」

月はとても驚きました。

それでも月には、これが自分一人のものとは思えません。「やっぱりこれは、太陽と僕のものなんだよ」

月はそう言って、ある決意をしました。

「僕は、皆の願いが叶うように、祈ってみるよ。僕だけにできる」とを、一生懸命に！」

そうして、わずかな時間の二つの会話は終わっていった。

太陽は、たくさんものを照らし続け、その小さな背を押していく。

月は、太陽に支えられ、そして、たくさんものの願いが叶うよう祈り続けている。

月があんなにきれいで優しいのは、今もたくさんの願いを叶うように祈っているからなのかもしれない。

いつの日か、月にはこんなジンクスができたんだ。

『きれいな月夜の日に、たった一つだけの願い事を願うと、お月様が叶えてくれる』

ってね！

これは、本当は誰も知らない、太陽と月だけが知っている物語。

月夜の晩の、小さな物語。

(後書き)

感想や評価をしてもらえるとうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3589n/>

月の願い事

2011年10月7日19時14分発行